

馬路村、 スポーツ の秋。



太平洋沿いの道を曲がり山道をのぼること1時間、少し開けた集落にある馬路村ヤナセ地区のグラウンドでは、村をあげた大運動会が開かれます。人口800人ほどの村ではありますが、役場、農協、森林管理署など村内事業所対抗で行う、大人たちの本気の運動会。競技レベルも同じよそらの運動会とは違い、いい大人たちが苦戦の連続を強いられることとなります。また、各事業所の新しい顔ぶれなどのお披露目のようなものもかねており、「あの新しい子はどこから来た子で？」と、それも話題のひとつです。われらが農協チームは優勝からずいぶんと遠ざかっておりまして、「今年こそは」とひそかに燃えており、若手とベテランを上手く融合したチーム編成で挑みますが、晩の交流会もメインであることは言うまでもありません。

お手々、 つな いで



さる9月、村内外から多くのランナーたちが集い「馬路村おしどりマラソン」が開催されました。ランナーたちといっても、大会の名の通りおしどり夫婦・カップルでの参加が条件で、ゴールでは「お手々つないで」が唯一のルール。そして、なんと今年で40回目を迎え村の中では大きなイベントとなりました。全国のおしどりさん、来年ぜひ参加してみたいかでしょう。



編集後記

密となる日々が戻り一年以上が経ちました。冬の神祭やはし拳など村のイベントもすっかり元のかたちに戻り、改めてその活気を感じています。運動会や、時にはお酒を囲んだ密から生まれる、村だからそのコミュニケーションはとて心地向く、馬路村をより強固なものにしている気がします。このコミュニケーションが互いの理解と協力として、谷あいの村の中で古くから紡がれてきたのでしょうか。とはいえ、イベントや飲み会が毎週末のように訪れる日常を過ごすこんなにも密が多かったものかと実感する一年でした。

令和6年秋冬
発行
馬路村農協

うまいと 新聞

馬路村相名地区、黄金色に染まった風景が広がります。基本的に売らずに自分たちが食べるくらいのお米しかとれませんが、村の寒暖差の大きさからかそのお米のおいしいこと。「あんまり見栄えがえいもんじゃあない」とは言いながらも、段々に広がる田んぼでの稲刈り作業と村の新米の香りは秋の風物詩です。



馬路村への道
高知市から室戸方面に約51km 国道55号線を太平洋沿いに進めると安田町へ入る。そして左に大きい魚がみえてきたら左へ曲がり、安田川に沿ってさくわくわく上る。県道12号線を走る事20km 約30分。ひやうと馬路村に着きます。

ブログ
日々馬路村
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路温泉

ツルツルのお湯です。
ゆっくりここにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026

「美しいゆず畑をつくり、きれいでおいしいゆずをつくろう」
これが馬路村の190戸からなるゆず部会の理念です。
当たり前のようなフレーズの「きれいでおいしい」ですが、
我々が20年以上取り組んできたオーガニックののびのびとした栽培方法では、
スーパーなどに並ぶような見た目がきれいなゆずは並みの努力ではつくれません。
秋の収穫を迎えるまでの生育の過程で傷もできるし病気もあります。
化学農薬を使わない中でも見た目を諦めるのではなく、
多少ゴツゴツでも、いかにきれいなゆずを作り上げるかを求める
農家たちの大きな理念になっています。
きれいや美しさの基準はそれぞれの価値観によって異なりますが、
自分たちが自信を持った村基準の「きれいでおいしい」を届けられるように
収穫と搾汁に、この秋も励んでいきます。



今、オーガニックの波が学校で提供される給食にも広がり、
「オーガニック学校給食」を取り入れる地域が増えていますが、
そこに使用できる国内の食材が圧倒的にまだ足りないという現状も聞きます。
全国の田畑面積に占める有機農業面積はまだ1%にも満たない中で、
国をあげてのオーガニック農産物の生産拡大がこれから始まりますが、
課題も多い中でオーガニック農産物の供給まではまだ数年かかるでしょう。
我々馬路村としてその中でできることを模索していき、
ゆずが果たしてどういった役割を担うことができるかはわかりませんが、
全国の地域と今までは違ったつながりを築いていこうと思います。